

鎮咳剤

劇薬

日本薬局方 ジヒドロコデインリン酸塩散1%

リン酸ジヒドロコデイン散1%<sup>〔ホエイ〕</sup>

1% Dihydrocodeine Phosphate Powder

貯法：気密容器、室温保存  
使用期限：4年  
（外箱等に表示の使用期限内  
に使用すること）

承認番号	21300AMZ00568
薬価収載	1954年5月
販売開始	1968年9月

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. 重篤な呼吸抑制のある患者〔呼吸抑制を増強する。〕
2. 気管支喘息発作中の患者〔気道分泌を妨げる。〕
3. 重篤な肝障害のある患者〔昏睡に陥ることがある。〕
4. 慢性肺疾患に続発する心不全の患者〔呼吸抑制や循環不全を増強する。〕
5. 痙攣状態（てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒）にある患者〔脊髄の刺激効果があらわれる。〕
6. 急性アルコール中毒の患者〔呼吸抑制を増強する。〕
7. アヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
8. 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌（O157等）や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢のある患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】

細菌性下痢のある患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

【組成・性状】

組成

販売名	リン酸ジヒドロコデイン散1% <sup>〔ホエイ〕</sup>
成分・含量 （1g中）	日局 ジヒドロコデインリン酸塩 10mg
添加物	乳糖水和物

製剤の性状

白色の散剤で、においはない。

【効能・効果】

1. 各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静
2. 疼痛時における鎮痛
3. 激しい下痢症状の改善

【用法・用量】

通常、成人には、1回1g、1日3gを経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

※※【使用上の注意】

※※1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)心機能障害のある患者〔循環不全を増強するおそれがある。〕
- (2)呼吸機能障害のある患者〔呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- (3)肝・腎機能障害のある患者〔代謝・排泄が遅延し副作用があらわれるおそれがある。〕
- (4)脳に器質的障害のある患者〔呼吸抑制や頭蓋内圧の上昇を起こすおそれがある。〕
- (5)ショック状態にある患者〔循環不全や呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- (6)代謝性アシドーシスのある患者〔呼吸抑制を起こすおそれがある。〕
- (7)甲状腺機能低下症（粘液水腫等）の患者〔呼吸抑制や昏睡を起こすおそれがある。〕

- (8)副腎皮質機能低下症（アジソン病等）の患者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- (9)薬物依存の既往歴のある患者〔依存性を生じやすい。〕
- (10)高齢者（「5. 高齢者への投与」の項参照）
- (11)衰弱者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- (12)前立腺肥大による排尿障害、尿道狭窄、尿路手術術後の患者〔排尿障害を増悪することがある。〕
- (13)器質的幽門狭窄、麻痺性イレウス又は最近消化管手術を行った患者〔消化管運動を抑制する。〕
- (14)痙攣の既往歴のある患者〔痙攣を誘発するおそれがある。〕
- (15)胆嚢障害及び胆石のある患者〔胆道痙攣を起こすことがある。〕
- (16)重篤な炎症性腸疾患のある患者〔連用した場合、巨大結腸症を起こすおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- ※※(1)重篤な呼吸抑制があらわれるおそれがあるので、12歳未満の小児には投与しないこと。（「7. 小児等への投与」の項参照）
- ※※(2)重篤な呼吸抑制のリスクが増加するおそれがあるので、18歳未満の扁桃摘除術後又はアデノイド切除術後の鎮痛には使用しないこと。
- ※※(3)重篤な呼吸抑制のリスクが増加するおそれがあるので、18歳未満の肥満、閉塞性睡眠時無呼吸症候群又は重篤な肺疾患を有する患者には投与しないこと。
- (4)連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。（「4. 副作用」の項参照）
- (5)眠気、眩暈が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。

3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素UGT2B7、UGT2B4及び一部CYP3A4、CYP2D6で代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 フェノチアジン系 薬剤 バルビツール酸系 薬剤等 吸入麻酔剤 MAO阻害剤 三環系抗うつ剤 β-遮断剤 アルコール	呼吸抑制、低血圧及び顕著な鎮静又は昏睡が起こることがある。	相加的に中枢神経抑制作用が増強される。
クマリン系抗凝血剤 ワルファリン	クマリン系抗凝血剤の作用を増強させることがある。	機序は不明である。
抗コリン作用を有する薬剤	麻痺性イレウスに至る重篤な便秘又は尿貯留が起こるおそれがある。	相加的に抗コリン作用が増強する。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用（頻度不明）

- 1) 依存性：連用により薬物依存を生じることがあるので、

